

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101358	事業の開始年月日	2003年2月1日	
		指定年月日	2003年1月31日	
法人名	株式会社ソーシャルライズ			
事業所名	グループホームせせらぎの里			
所在地	(〒 989-3431 ) 宮城県仙台市青葉区作並字川崎34-2			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1	
自己評価作成日	2023年3月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広瀬川のせせらぎが聞こえる自然豊かな環境の元、民家を活用した温かい建造作りの建物となっております。  
家庭的な雰囲気を大切に、地域住民との関りを大切に支援を必要とする方の心に共に動き、共に感じ、共に生きる関係を築けるように職員一同ケアを行っております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年3月24日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の理念】</b> 法人の理念：社会福祉活動を通し、共働・共感・共生社会の実現へ貢献します。 (私たちは、自らが地域、地域住民の中にあることを自覚し、支援を必要とする方の心において共に働き、共に感じ、共に生きることで、ご利用者、地域住民、職員の物心両面の幸福を追求していきます。) 令和4年度せせらぎの里 理念：利用者様が毎日健康で笑顔に過ごしていただけるよう、職員間でコミュニケーションをとり統一したケアを行っていただけるよう努めてまいります。</p> <p><b>【事業所の概要】</b>母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人「株式会社ソーシャルライズ」は、短期入所生活介護、グループホームを仙台市内に3ヶ所運営している。他に就労継続支援B型、企業主導型保育園などの運営もしている。「グループホームせせらぎの里」は国道48号線沿いのニッカウキスキー工場の手前を左折した住宅地の一角にある。広瀬川のせせらぎが聞こえる自然豊かな環境の中、民家を活用した木造2階建ての1ユニットで2003年に事業を開始し現在に至っている。</p> <p><b>【事業所の優れている点・工夫されている点】</b> ◇優れている点：1ユニットで運営していることで、職員は利用者とは綿密にコミュニケーションを図り、一人ひとりの想いを大切にケアを行っている。コロナ禍で面会もなかなかできない中、家族に面会についてアンケートを実施し意見や要望の把握に努めている。 ◇工夫されている点：職員が一週間ごとに交替で献立を作成し、食事も作っている。献立は法人の栄養士からのアドバイスも参考に作成している。誕生日、ひな祭り、お彼岸にはおはぎ等、行事食も手作りし、コロナ禍でも大きな楽しみ事として大切にしている。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームせせらぎの里
------	---------------

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームせせらぎの里）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉活動を通し、共働、共感、共生社会の実現へ貢献しますの理念を基に全職員で共通したケアを実践していけるように心がけている。また一年に一度利用者様のニーズ地域の特性を配慮した理念を職員が検討し作成している。	法人の理念を基に作成された事業所理念を事務室に掲示している。理念は、年度末のミーティングで話し合い決定している。利用者には、わかりやすい言葉でコミュニケーションをとり、職員同士も日々理念に基づいた支援になっているか確認し合いながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、町内会に加入している。また小学校の行事に招待されたりしている。	町内会に加入している。以前は、小学校の運動会や卒業式、町内の敬老会への招待があったが、コロナ禍によって学校行事や町内会行事（避難訓練等）に参加ができていない。町内会の住民とは挨拶を交わすくらいの交流である。現在は、ボランティアの受け入れもしていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に挨拶や会話ができる環境となっている。避難訓練や夏祭りなどに参加していただく等、地域の方々とコミュニケーションを取る事が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者についてやサービス提供の実際、評価への取組み、行事報告等の話し合いを行っている。出された意見は職員間でも検討し、サービスの向上に活かしている。	メンバーは町内会会長、民生委員、地域包括職員、管理者で開催している。例年は年6回運営推進会議を開催していたが、コロナ禍の為、今年度は感染症対策を徹底し3回集まり、感染状況が悪化した際、3回書面で開催した。書面開催時には事業所の状況を記入した報告書と「せせらぎの里便り」をメンバーに郵送している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月ホーム便りを配付している。	毎月、仙台市主催の研修会の連絡があり、研修テーマや内容に合わせて職員が参加している。毎月「せせらぎの里便り」を市担当者などに送付し、事業所の空室状況を報告したり、地域包括支援センターに相談するなど連携を図っている。宮城総合支所の職員に生活保護利用について相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。チャイムは設置されているが、それに頼ることなく利用者様を見守り、外出傾向のある利用者の把握している。また、近所の方々との関係性も良好で、声掛けをしていただける関係を築いている。職員間でも話し合う等して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等適正化対策検討委員会で3ヶ月ごとに研修会と合わせて開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の転倒防止のために、家族の同意を得てベッド下に床センサー、人感センサーを設置している人もいる。玄関施錠は19時から翌朝6時までとしている。外出要求が強い人には、職員と一緒に同行している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止など内部研修で勉強会などを行っている。職員全体で虐待が起こらないよう取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの研修会と一緒に研修し、不適切なケア、声掛けの時のスピーチロックに気を付け職員間で確認している。管理者は、職員が悩みを一人で抱え込まない事、ダメなことはダメという事など、普段からのコミュニケーションを図り、意見を交わしやすい職場作りに心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修を行い学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や退所時、改定等の際には文書と口頭で説明を行い、理解・納得を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情担当者、外部に第三者委員を設立し、重要事項説明書に明記している。また、苦情受付の公的機関も明記している。ホーム内に「ご意見箱」を設置している。	家族から面会についての要望が出たので、アンケート調査を行っている。現在面会は、玄関でマスクを着用しシート越しに行っている。家族には、職員が日常の様子を手紙にして報告し、「せせらぎの里便り」と一緒に渡し、「小さなことでもよいので連絡ください」と言っている。第三者委員を委嘱している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由に意見を言える雰囲気が作られている。職員の意見や提案を聞き反映させられている。	管理者が、職員からの意見をその都度聞いている。ケア内容についての提案はミーティング時に聞いている。介護福祉士受験資格の実務者研修、認知症実践者研修の受講は勤務扱いとし、シフト調整などにも配慮している。参加費用の負担等は法人が援助している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に意見を言える雰囲気が作られている。職員の意見や提案を聞き反映させられている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促し、内部でも勉強会を行っている。希望があれば働きながら資格取得が出来る様に配慮している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修等を通して同業者との意見交換や交流を図り、サービス向上に繋がるように取り組んでいる。	同法人のグループホームと看取りなどの研修を合同で行っている。コロナ禍の前は、同法人の他事業所と一緒にレクリエーションなどを行っていたが、コロナ禍により現在は開催していない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みを頂いてから実態調査をして本人と面談をしている。その際に困っている事、不安な事、求めていることなど、よく伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学や実態調査などで、家族が困っている事、不安なこと、希望している等を伺い信頼関係を築けるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時一番に必要としている事を見極め、本人と家族の意向に副ようなサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と寄り添い、なじみの関係が築けるよう、また、信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の生活状況をお便りや電話等で伝え、必要があれば家族の協力や支援を求め等、共に本人を支えて行く関係を築くよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為、玄関先でビニールシート越しの面会となっている。その他、写真や手紙、電話連絡などで可能な限りの関り支援に努めている。	利用者の家族・友人からの電話、手紙、はがきなどの取次支援を行っている。コロナ禍のため、車から降りないで車内で景色を楽しめるようドライブしている。馴染みの訪問理・美容を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、職員が橋渡しとなるよう努めている。食事の席、レクリエーション時の配慮等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも電話や手紙のやり取りがある場合もあり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向について、日々の生活の様子や言動から把握できるように努めている。困難な場合は本人や家族から情報を得る等し、利用者本人の意向を重視している。	利用者一人ひとりの希望を把握し支援している。季節の花の折り紙、塗り絵など作成し完成品を職員と一緒に部屋に飾っている。自分の意見を言えない利用者は、笑ったときの状況を申し送りノートなどに記入し、職員で情報共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や家族、担当ケアマネージャーに情報提供をして頂き、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子や会話等から本人の現状を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でアセスメント、カンファレンスを行い、本人や家族、医療機関等の意見も含まれた介護計画となるよう作成している。	介護計画に短・長期目標を定め、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。ミーティング時には一人ひとりの状態を話し合い、家族の意見や医師からの病状説明内容を考慮し、介護計画を見直している。遠方の家族へは、電話で説明し、郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や言動、排泄、食事、水分量、職員の気付きなどを記録し、職員間で情報の共有をはかっている。また、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、ドライブ、外食などの外出、自宅への外泊等のニーズにできる限り対応し、個々の満足感を得られるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員や民生委員に運営推進会議時に意見をいただいている。また、小学校の行事にも招待され参加している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。また、家族に受診時の報告をタイムリーに行っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。事業所の協力医療機関をかかりつけ医にしている人は、職員が同行し受診している。それ以外の医師への受診は、家族付き添いを基本とし、職員が作成した身体状況の報告書を医師に渡してもらい情報提供している。訪問看護ステーションとの契約で週1回看護師が来所し、身体状況の確認、病状や内服薬について相談などしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間オンコールの体制をとっている。また、訪問時には日常の状態を伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合には安心して過ごせるよう病院関係者との情報交換や相談に努めている。協力病院とは日々連携をはかり、365日、24時間相談できる体制をとっている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」の説明と終末期のあり方について意向を伺い同意を得ている。また、利用者が重度化した場合には家族やかかりつけ医、訪問看護師と連携を図り支援に取り組んでいる。	看取りの経験はない。「重度化した場合における対応に係る指針」において、事業所として対応できないことなどを入居時に説明し、同意を得ている。終末期になると、医師と相談し、家族と訪問看護師、職員で連携し、今後について話し合っている。胃ろうの利用者は受け入れていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を受講するよう会社で取り組んでいる。緊急時のマニュアルの作成もしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成されており、夜間時の想定も含んだ避難訓練を行っている。地域との協力体制としては、運営推進会議において災害時には協力していただけるよう働きかけている。また、避難訓練にも参加していただいている。	今年度は2回避難訓練（内1回は夜間想定訓練）を実施した。階段には昇降機が設置されている。夜勤時は1ユニット1人体制で、災害時に地域からの支援が必要と考えているが、周りに民家も少なく、現在は連携ができない。コロナ禍で地域の避難訓練には参加していない。目の前に川が流れているので、水害のリスクについて消防団の応援を検討したい。豪雨時は同法人のショートステイに避難した。	夜間帯は職員1人体制になり、周りに民家も少ないことから、運営推進会議において、災害時の地域の協力体制について検討することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した呼び方や言葉かけを行うよう努めている。また、記録をとる際には利用者の目に触れないよう配慮している。	呼び方は「さん」付けで統一している。一人ひとりのプライバシーに配慮し、記録する際には自分の事を書いているのではと利用者に誤解されないよう、目に触れないように配慮している。排泄介助は、傍に行つてさりげなく声掛けをする、状況によりタオルで覆いトイレに誘導する、など尊厳を損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような見守り、言葉かけを心がけ、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先にならないように努め、利用者一人ひとりのペース、希望にそった支援を行えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったものや、その方の好みに合わせたその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食事量を残食等から把握し、献立に役立てている。献立は一週間単位で職員が交代で立てている。食材はその都度購入して新鮮なものを提供している。	献立は、一週間単位で職員が交替で作成し、職員が調理している。法人の栄養士に献立を見てもらいアドバイスを得ている。食材は、ネット注文で配達されている。誕生日、ひな祭り、お彼岸にはおはぎ等、行事食も手作りし、楽しんでいる。利用者は自分ができる役割を担い、盛り付けや食器拭きなどを行っている。職員が利用者一人ひとりの食事の残量をチェックしている。コロナ禍で職員は利用者と一緒に食事をしていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個別に記録し、把握、管理している。体重測定を月に一度おこない、献立は定期的に栄養士からの指導、助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行い、一人ひとりに合わせた声掛けや見守り、介助等を行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックをして、一人ひとりのパターンをつかむようにしている。できる限りトイレでの排泄を促し、自立にむけた支援を行っている。	トイレは1階に1ヶ所、2階に2ヶ所ある。排泄チェック表を作成し、一人ひとりのタイミングや状態を確認し、トイレで排泄ができるように支援している。夜間帯のみポータブルトイレを使用して人もいる。便秘対策として、食事には繊維質の物を多く取るように工夫しているが、医師と相談して内服薬を処方してもらっている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをして、一人ひとりの状態を把握するよう努めている。飲食物は乳製品や野菜を取り入れる工夫を行い予防に努めている。必要があれば、かかりつけ医や訪問看護師に相談し指導して頂いている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者に合わせた入浴支援に努めている。拒否等に対しては言葉かけの工夫、人的配慮により対応している。	基本、入浴は週2回としている。浴室が2階にあり車いすの人は、昇降機を使用して浴室まで移動している。湯は一人ひとり交換し、行事に合わせてたり、ゆず湯など季節感を味わえるように取り組んでいる。入浴を好まない人には、誘導するタイミングや声掛けする職員を替えて、入浴を促している。入浴できない場合は清拭、足浴で対応し清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの夜間記録等を活用し、睡眠パターンを把握するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、正しく服薬できるよう支援している。また、症状の変化が確認された場合は記録し、かかりつけ医に報告、相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味を生活の中で活かす事ができるように努めている。誕生会やドライブ、外食、レクレーション等のイベントを企画し、楽しみや気分転換となるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、日常的に外出ができるよう努めている。行事を利用して出かけるようにしている。	コロナ禍で遠出ができず、近所の桜・紅葉などを車の中からドライブで楽しんだ。事業所の中で季節のイベント（お雛祭り、お彼岸、母の日）、誕生日会、テレビ鑑賞会、物作りなどを行って楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人が管理できる場合は財布を所持しており、買い物時には職員が支援している。また、自己管理が困難な利用者の場合は買い物時にお金を渡し、支払いをしてもらう等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙の支援をしていく。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を活けたり、季節に合った飾りを利用者と一緒に作成している。建物はセントラルヒーティングで、温度差がないよう配慮されている。	リビングは明るく、ソファが設けられ利用者はのんびりくつろいでいる。安全を考慮し、1階に2階が確認できるモニターを設置し、様子が分かるようにしている。居間には時計、カレンダー、利用者と職員と一緒に作った季節の飾り物などがあり、温かい雰囲気である。床暖房が設置され空調調整もされて全館温度差がないように職員が調節している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーや、空間に椅子のコーナーを設け、一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのものや家具等を居室に持ち込んでいただき、以前住んでいた部屋に似た環境を作るようにしている。	エアコン、カーテン、ベッドが備え付けてある。自宅から使い慣れたテレビ、衣装ケース等を持参している。部屋には写真や手作りの作品を飾ったり、ぬいぐるみを置いたりし、個々の思いを大切にされた設えになっている。将棋の好きな利用者は将棋台を置いている。部屋の整理整頓は職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた危険防止の工夫や、認知症が進行してしまう利用者に対して、できる限り本人の力が発揮でき、自立した生活が送れるよう工夫している。		